

日本産業衛生学会東北地方会ニュース

みちのく

No.61

5/31

2019

発行／令和元年5月31日・発行所／日本産業衛生学会東北地方会事務局

住所／〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1（東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内）

電話／022-717-7874・FAX／022-717-7883・e-mail/sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人／黒澤 一

地方会の開催にあたって

第78回日本産業衛生学会東北地方会 学会長

岩手医科大学衛生学公衆衛生学講座

教授 坂田 清美

この度、第78回日本産業衛生学会東北地方会を盛岡で開催する運びとなりました。本学会は今年で78回目を迎え、大変歴史の深い学会です。6年ぶりに皆様を歓迎できますこと、心より嬉しく思っております。会場は2018年に新築された岩手教育会館で、中心市街地と盛岡城跡公園（岩手公園）の間にあり、便利かつ風光明媚な立地です。

今回のメインテーマは「産業保健におけるストレスへの取り組み」と致しました。ストレスといっても様々で、物理的、化学的、社会経済的、心理的など、枚挙に暇がありません。平成の終わりには労働安全衛生法や労働基準法など、様々な改正法が施行され、ストレスチェック、化学物質対策、受動喫煙対策、そして働き方改革等が矢継ぎ早に進められようとしております。このような中、特別講演として、北里大学の堤明純先生に「ストレスチェックに関するエビデンス」とのタイトルでご講演を頂く予定としております。施行から3年半が経過するタイミングで最新のエビデンスを聴講できる絶好の機会と考えております。

恒例の事業所見学は、岩手県予防医学協会 Big Waffle を予定しております。岩手県予防医学協会では、健康診断・人間ドック・健康支援・環境調査などの予防医学事業を大規模に行っており、産業医学分野でも健康診断、ストレスチェック、作業環境測定、健康相談、精密検査外来、嘱託産業医活動など多岐にわたる活動を行っております。同協会を実際に訪問することで、広範な産業保健に係る事業の実態を学ぶことが出来るかと存じます。

また、懇親会は、盛岡駅付近のホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING の2階にあるフランス料理「モン・フレブ」を予定しております。岩手には豊富な食材と地酒（日本酒、ビール、ワイン）がありますが、洞爺湖サミットでも腕を振ったシェフの料理とともにご堪能頂けましたら幸いです。

学会運営には不行き届きな点多々あるかと思えます。特に、今年はラグビーワールドカップを控えており、7月27日(土)にパシフィック・ネーションズカップ初戦（日本対フィジー）が釜石で開催されるタイミングと重なり、宿泊の確保が困難になることが予測されます。その他、お気づきの点がありましたらご遠慮なくお知らせ頂ければ幸いです。

それでは盛岡で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

第 78 回 日本産業衛生学会東北地方会開催要項
 メインテーマ：「産業保健におけるストレスへの取り組み」

学会長： 坂田 清美
 岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座 教授

1. 会期：2019年7月26日（金）～27日（土）
2. 会場：
 〒020-0022 岩手県盛岡市大通一丁目1番16号
 一般財団法人 岩手教育会館
 ＊会場アクセス：JR 盛岡駅からの距離 1.2km
 （徒歩 15～20分、タクシー 5～10分）
 JR 盛岡駅東口よりバス（でんでんむし）16番より
 乗車・約10分 左回りにて「盛岡城跡公園」下車すぐ



3. 参加費：2,000円
4. 参加申込：同封の参加申込書を事務局宛に7月5日(金)までに E-mail または Fax にてお送り下さい。学会のみの参加は当日受付も可能です。
5. 発表・講演・その他企画
 - 1) 一般講演：7月27日(土) 9:00～12:00
 - ・会場：Aホール
 - ・演題発表：口演（質疑含め12分）として募集します。
 - ・発表申込：E-mail で6月14日(金)までに、事務局までお願いします。
 - ・発表は PC での発表のみとします。
 - ・抄録集を作成しますので、6月14日(金)までに1演題につき演題名、演者名、所属、本文、図表等を含む Word 形式にて、A4 サイズ 1 ページの抄録原稿を E-mail でお送り下さい。
 - ・別に学会誌掲載用の抄録（400字以内、図なし）も当日までにご提出下さい。
 - 2) 役員会：7月27日(土) 12:00～12:50
 - ・会場：Bホール
 - 3) 総会：7月27日(土) 13:00～13:20
 - ・会場：Aホール
 - 4) 特別講演：7月27日(土) 13:30～15:00
 - ・会場：Aホール
 - ・演者：堤 明純先生（北里大学医学部 公衆衛生学 教授）
 - ・演題：ストレスチェックに関するエビデンス
 - 5) 各部会：7月27日(土) 15:10～16:40

- ・第 23 回産業医協議会 (A ホール)
シンポジウム：女性医師、女性労働者の働き方
演者：野村 恭子先生 (秋田大学大学院医学系研究科 公衆衛生学講座 教授)
堀 愛 先生 (筑波大学医学医療系福祉医療学分野 国際社会医学研究室 助教)
- ・第 26 回産業看護のつどい (B ホール)
講演 (15:10~16:10)：発達障害を持つ方の就労支援
演者：鈴木 淳平先生 (本多友愛会 仙南中央病院)
産業看護部会総会 (16:10~16:40)
- ・第 14 回産業衛生技術部会 (カンファレンスルーム 201)
- ・産業歯科保健部会 (カンファレンスルーム 202)

6) その他の行事予定

①事業所見学 7月26日(金) 14:00~16:00

見学事業所：岩手県盛岡市北飯岡四丁目 8-50 岩手県予防医学協会 Big Waffle

募集人数：30 名 (要事前申込)

参加費：1,500 円 (バス代他)

注：事業所見学参加申し込みは、6月3日(月)~6月24日(月)です。

E-mail にて件名に「事業所見学申込」と記載の上、学会事務局に申し込んで下さい。13:30 に盛岡駅西口を出発しますので、その前に集合して下さい。

途中、東北公衆衛生学会の会場である岩手県民会館を経由する予定です。

②川上憲人先生と語ろう 7月26日(金) 18:00~18:30

会場：〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通 2-27

ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 2F フランス料理「モン・フレーブ」

③懇親会 7月26日(金) 18:30 開宴予定

会場：〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅前北通 2-27

ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING 2F フランス料理「モン・フレーブ」

参加費：6,000 円

なお、日本医師会認定産業医制度における産業医研修として、事業所見学(生涯・実地 2 単位)、特別講演(生涯・専門 1.5 単位)、産業医協議会(生涯・専門 1.5 単位)の単位、および日本産業衛生学会産業看護部会「産業保健看護専門家制度」単位を申請しております。

学会事務局：〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町西徳田 2-1-1

岩手医科大学 衛生学公衆衛生学講座内

「第 78 回日本産業衛生学会東北地方会」学会事務局

TEL: 019-651-5111 (内線 5775) FAX: 019-908-8008

E-mail: ertakus@iwate-med.ac.jp (担当：田鎖愛理、佐々木弓枝)

産業医部会

第22回 産業医協議会 開催報告

産業医部会幹事

菅原保(医療法人健友会 本間病院)

各務竹康(福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座)

前期より引き続き、産業医部会は菅原、各務の2名で地方会幹事を務めさせていただくこととなりました。皆様、よろしくお願ひいたします。今年は7月に恒例の地方会を盛岡で開催するほか、9月には地方会長の黒澤一先生が企画運営委員長、部会幹事の菅原が実行委員長となり、全国協議会を仙台で開催いたします。産業医部会が担当する企画は、地方会での産業医協議会は「女性医師、女性労働者の活躍」、全国協議会での部会自由集会は「産業医が知っておきたい復職支援のポイント」をテーマとして、現在演者の先生方と打ち合わせを行っております。

東北地方はそれぞれの県が広く、かつ交通の便も十分でないところもあるため、例年年1回の地方会、産業医協議会が貴重な会員交流の場となってまいりました。今年は幸いにも2回交流の場が設けられます。部会員の皆様におかれましては、どちらも積極的にご出席いただき、参加者として、また運営者として(スタッフの申出歓迎いたします)会を盛り上げていただけたらと思ひます。

産業看護部会

青森県立保健大学 千葉敦子

東北地方会産業看護部会は、全国幹事である2名と、各県から1名の委員および4名の顧問の計12名で運営委員会を組織しています。今年度からメンバーが一部交代となり、山形県と青森県の運営委員に変更がある予定です。正式には7月の東北地方会の総会でご承認いただく予定ですので、新メンバーともどもよろしくお願ひ申し上げます。産業保健看護をめぐる動向につきましては、本部看護部会から「産業看護フォーラム」にて情報が発信されていますが、最新情報の一部をここでもご紹介いたします。保健師助産師看護師法では、新任期教育の努力義務化が明示されていますが、産業保健分野ではそれが体系的になされていない現状にありました。それが今回、新卒の保健師・看護師だけではなく、他領域から産業保健分野に移ってきた保健師・看護師をも対象とした新任期教育の予算化が決まったとの朗報がありました。また、10年に一度の看護基礎教育の見直しが現在行われており、産業保健分野の強化が期待されているという情報もあります。今後の動向を注視していくことが求められます。最新情報につきましては、HPや各県の運営委員を通じて随時提供していきたいと考えております。まずは各県の運営委員にお気軽にお声かけくださいますようお願いいたします。

産業技術部会

産業技術部会幹事 河合 直樹

【昨年度の活動報告】**◎第 77 回東北地方会（東北大学医学部開設百周年記念ホール）**

- 日 時：平成 30 年 7 月 28 日(土)15：10～16：40
- 内 容：地元会員による講話と懇談
- 発表者：労働衛生コンサルタント 花上恭二 氏
- テーマ：「洗剤の代替によるリスク低減の事例」
- 参加者：8 名

【本年度の計画】**◎第 78 回東北地方会（岩手教育会館）**

- 日 時：令和元年 7 月 27 日(土)15：10～16：40
- 内 容：地元会員による講話と懇談
- 発表者：労働衛生コンサルタント 関向和明 氏

◎第 29 回全国協議会（仙台国際センター）

- 日 時：令和元年 9 月 12 日～14 日
- 産業衛生技術部会主催の主なプログラム
 - ◇シンポジウム：「生物学的ハザードと作業環境」
 - ◇シンポジウム：「作業環境測定が変わる！ 個人サンプラー測定の導入」
 - ◇教育講演：「化学物質の安全衛生管理の実際～地元事業所の取組事例報告～」

産業歯科保健部会

産業歯科保健部会幹事 井川資英

歯科保健部会の皆様、お元気で御活躍のことと拝察致します。今回は学会のお知らせです。皆様に身近な学会のお知らせをふたつ。

1. 第 78 回日本産業衛生学会東北地方会が来る 7 月 26 日(金)～27 日(土)岩手教育会館で開催されます。歯科保健部会は 7 月 27 日(土) 15:10~16:40 にカンファレンスルーム 202 で部会ミーティングを行います。多くの皆様の御参加をお待ちしております。
2. 第 29 回日本産業衛生学会全国協議会が今秋 9 月 12 日(木)～14 日(土)に仙台国際センターで開催されます。歯科保健部会は 1)教育講演「働くための口腔のコミュニケーション機能と健康格差を考える：職域で最も多い疾患への対策」演者：相田潤先生（東北大学大学院歯学研究科国際歯科保健学分野）、2)シンポジウム「働きたい人を口腔保健から支援する」演者：飯久保正弘先生（東北大学病院 周術期口腔支援センター）および小山重人先生（東北大学病院 歯科部門 顎口腔再建治療部）を企画しております。また、13 日(金)夜には部会懇親会を予定しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

お問い合わせは私、井川まで（メール：ikawa@dent.tohoku.ac.jp）

事業場紹介 第4回

会社勤めをしています～専属産業医2年生～

福島キヤノン株式会社 専属産業医 熊谷 智広

2018年4月より、山内徹先生の後任として福島キヤノン株式会社に専属産業医として勤務しております熊谷智広と申します。日本産業衛生学会東北地方会の皆様には、福島県立医科大学衛生学・予防医学講座に在職時より大変お世話になり感謝申し上げます。今回、「みちのく」で現在勤務している事業場を紹介させていただくこととなりましたので、どうぞよろしくお願い致します。

私の勤務している福島キヤノン株式会社は、吾妻連峰を一望出来る（社員食堂からの展望は絶景です！）福島市の西部に1969年に設立され、当初はカメラ生産を事業の中心としていました。かの名機「AE-1」も1976年に初出荷されています。その後、1978年にキヤノン株式会社と合併し「キヤノン株式会社福島工場」となりましたが、2003年に分社独立し現在の福島キヤノン株式会社となっております。1990年以降はインクジェットプリンター／インクタンクの生産を主に行っていて、1991年でカメラ生産は終了していますが、インクジェット事業では2017年にキヤノングループのマザー工場になりました。2018年12月時点での従業員数は1776名で、保健スタッフは健康支援室に常勤する私と保健師2名に加え、メンタル担当の非常勤産業医の4名です。北海道大学医学部出身の産婦人科医でもあったキヤノン株式会社の創業メンバーで初代社長の御手洗毅は、「企業の成長は社員の健康と幸せな家庭生活の上にしか成り立たない」と主張して、キヤノングループの5大行動指針の1つに「健康第一主義」を掲げました。このように、キヤノングループには創業当初より、企業戦略的に従業員の健康を守っていく理念が存在します。実際、法整備に先行して健康管理上の能動的施策を展開したり、1959年のGHQ(Go Home Quickly)運動や、1967年の週休2日制導入など、現在の働き方改革に通ずる施策もいち早く実施したりしました。また、2016年よりグループ敷地内禁煙となっております。このような企業経営が評価され、キヤノン株式会社は健康経営銘柄2019（国内上場会社中37銘柄）にも選ばれました。ところで、専属産業医1年生だった昨年は、これまで臨床の現場（神経内科）が長く、産業医経験も大学の衛生学・予防医学講座でお世話になった6年間の事務系嘱託産業医だけだったので、約1800人も従業員のいる製造工場はいったい何が起こるのだろう、とドキドキの毎日でした。実際は、前述した健康対策同様、かなり統一された安全管理体制も整っているうえ（キヤノングループ独自のOSHMSもあります）、大部分の作業がオートメーション化しているので滅多に事故は起きませんでした（とは言え、はじめの3ヶ月に事故が集中し前年を上回ってしまったので、慌てて会社敷地内の神社にお参りに行きました）。無事(?)2年生となれた今年は、受け身だった昨年よりは少しでもこちらから労働安全衛生の充実に関われればと思っています。つきましては、今後とも皆様からのご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

産業看護とうほく

第36号 2019. 4

発行者: 日本産業衛生学会東北地方会

産業看護部会

連絡先: 〒030-8505

青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1

青森県立保健大学 看護学科 千葉

敦子

発行責任者: 千葉敦子・村越亜弥子

○第26回産業看護のつどい ご案内

下記の日程で『第26回産業看護のつどい』を開催いたします。

企業でも話題になる事が多くなってきた発達障害を持つ方の就労支援をテーマに、その方面に詳しい仙南中央病院の鈴木淳平先生に、ご講演をしていただきます。皆様お誘い合わせの上、奮ってご参加ください。“

[日 時] 令和元年7月27日(土) 15:10~16:40

[場 所] 岩手教育会館 盛岡市大通一丁目1番16号

[参加費] 学会参加費 2,000円

[プログラム]

15:10~16:10 講演「発達障害を持つ方の就労支援」

講師 鈴木 淳平先生 (本多友愛会 仙南中央病院)

16:10~16:40 産業看護部会総会

[参加申し込み] 地方会参加申込書にてお申し込み下さい

第29回日本産業衛生学会全国協議会が仙台で開催

今年度“働きたいを支える産業保健”をテーマに杜の都仙台で開催されます。

1000人もの関係者が一同に集う予定です。全国から来る産業看護職の皆さんと交流が持てるよい機会です。学会員の皆様はもちろん、学会員以外の産業看護職の皆様もお誘いの上、是非ご参加ください。委員一同お待ちしております。

会 期: 令和元年 9月12日(木)~14日(土)

会 場: 仙台国際センター(会議棟)

内 容: 産業看護シンポジウム、教育講演、ワークショップ等





各県の産業看護部会活動報告

- [青森]** 青森産業保健総合支援センター主催の産業看護職研修会が「保健事業のまとめ方と活用方法」「職場における感染症防止対策」「職場で接する精神疾患の基礎知識」「発達障害傾向のある労働者への配慮」「今後産業看護者に求められるもの」という内容で開催された。
- [秋田]** 秋田産業保健総合支援センター主催で「ストレスチェック集団分析と職場環境改善について」、「ハラスメント予防に繋がるコミュニケーション～違いを認め合う職場づくり～」と「職場で取組む、アルコール（各種依存症）対策について」の研修会が開催された。依存症対策の研修会の前に秋田産業保健会のメンバーが集まり、情報交換を行った。新たに1人が産業看護部会に入会した。
- [山形]** 山形産業保健総合支援センター主催の研修会として、産業看護職事例検討会が12月に行われ、山形市内に在籍している産業看護職が7名参加した。今後山形大学看護学科地域看護学講座准教授の森鍵祐子先生を中心に県内の産業看護職交流や情報交換の場に発展させたい。運営委員交代予定。
- [岩手]** 9月と2月に産業看護職研修会を岩手産業保健総合支援センター・日本産業衛生学会東北地方会産業看護部会共催により実施した。9月は「健康教育を効果的に実施する方法」と題して青森県立大の千葉敦子先生を講師に行い、24名が参加した。具体的な考え方や手法がとても分かり易かったと好評だった。2月は「治療と職業生活の両立支援の岩手の現状」と題して岩手産業保健総合支援センターの産業保健専門職の荻野とも子氏が講演した。
- [宮城]** 為になる産業保健勉強会を継続。第135回は2月に「第3期における特定保健指導について」が行われた。宮城産業保健支援センター主催の産業保健研修は「休職と復職を繰り返している社員への対応」、「メンタル不調者の職場復帰の進め方」を産業保健相談員の鈴木淳平先生が講師を勤め実施。「ハラスメント事例検討会」を特定社会保険労務士の西嶋淑子先生を講師に迎え実施した。
- [福島]** 福島産業看護研究会（インテル）の自主的勉強会では9月に「日本産業衛生学会（東京）」「東北地方会（福島）」の報告会、11月に「呼吸による癒し～身体と心の感覚を知る～」を保健師の佐藤清子さんを講師に行った。今年度は「人生100年時代に向けた健康管理」をテーマに、日本赤十字福島病院見学会や「女性労働者の健康管理」「精神障害を持つ労働者と職場の対応」「健康運動を予測する」「短い時間で筋力アップ」などの講演会を計画している。
- 福島産業看護協議会は福島産業保健支援センターと共催で、2月に「産業看護能力向上研修（後期）」としていわき市で「産業看護職のためのやさしい統計学」を開催した。

編集後記：平成最後の節目の時に原稿を書いています。昭和から平成になり31年。長時間労働が当たり前で仕事第一だった時代から、仕事もプライベートも大事にするという様に働く人の意識も変わってきました。これから産業看護職として何ができるか、と思う今日この頃です。（秋田：佐

日本産業衛生学会東北地方会の発展に御尽力いただきました、元東北地方会長の角田文男先生（平成30年5月30日ご逝去 享年88歳）、元東北地方会看護部会部会長の黒田真理子先生（平成31年3月7日ご逝去 享年68歳）の両先生がご逝去されました。ここに御寄稿頂きました追悼のお言葉を掲載させて頂き、両先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

元地方会長 角田文男先生を悼む

中屋重直（東北厚生局岩手事務所）

日本産業衛生学会名誉会員・岩手医科大学名誉教授 角田文男先生が平成30年5月30日に88歳で逝去されました。先生は昭和5年福島県に生れ、県立福島医大を卒業後、北大大学院を修了されました。北大時代に先生は、日本電工栗山鉱業所の肺癌患者に着目して、退職者調査の必要性を指摘していました。これが我が国で初の六価クロムによる職業癌の発見です。昭和37年4月に県立福島医大公衆衛生学助教授に着任され、10年を経て昭和47年に岩手医大に移られ、平成11年3月まで27年間の長きにわたり、岩手医大医学部衛生学公衆衛生学講座を主宰されました。

東北地方会の歴史にふれますと、昭和33年7月、高橋英次（東北大衛生）先生が集談会を提唱したのが始まりです。医学部は弘前・岩手・東北・福島の4校のみでしたが、病理や法医学の教授も会員だったそうです。むしろ各地の労災病院や鉱山病院の院長先生が積極的に学会（集談会）の世話人を務め、ケイ肺や腰痛の研究が盛んでした。昭和49年に池田正之教授が東北大衛生学に着任され、20年間地方会長を務められた高橋先生に代わり、池田先生が第2代地方会長に就かれ、昭和55年には仙台で全国学会・全国協議会を主催されました。しかし、日本医師会との調整など大きな課題を抱えた時期（昭和63年9月）に池田先生が京大へ転出されました。

角田先生は第3代地方会長に就かれ、佐藤洋（東北大環境保健）先生に代わるまで16年間務めたわけですが、平成元年に110名だった会員数は300名を越すまでに大増加、特に嘱託産業医が過半数を占めるまでに発展いたしました。その背景には、地方会ニュースを（自費で）刊行し、会員以外の非常に多数の機関に無料送付して学会のPRに努めたこと、産業医学研修会を企画し講師陣の協力をしたこと、産業看護職については各県の名簿作りから始めて組織化したこと、医師会によって昭和53年から運営されていた東北医師会連合会産業保健学会を第19回（平成8年）をもって幕引きにして、産業衛生学会東北地方会に吸収したこと、などの新事業が大きかったと思います。学会に東北地方以外から特別講演講師を招くこととシンポジウムを企画することの恒例化もこの時に始まっています。部会や委員会と地方会との兼ね合いを整理し「地方会長の下に置く」規約を制定したことも挙げられます。

東北地方会に一貫して56年間も在籍された最古参の角田先生からみれば、平成17年以降今日に至る10余年に6名もの地方会長が次々と短期間で交替された現状を、心配されておられるものと察しながら追悼の辞といたします。



角田文男教授





黒田真理子先生を偲んで

産業看護部会の研究担当幹事としてご尽力いただき、ポスター表彰の基準なども作成いただきましたこと、心より感謝申し上げます。おらかな中にも、茶目っ気もある先生のお人柄は、私たちに心のゆとりを与えてくださいました。ご冥福をお祈り申し上げます。

日本産業衛生学会産業看護部会 部会長 五十嵐千代
(東京工科大学医療保健学部教授)

黒田先生は東北地方会産業看護部会の部会長としてご尽力されました。ご指導いただきたいことがたくさんありましたのに残念でなりません。心からご冥福をお祈り申し上げます。

日本産業衛生学会東北地方会産業看護部会 部会長 千葉敦子
(青森県立保健大学)

黒田先生は福島県立医科大学看護学部在任中より産業看護部会の幹事として東北地方会の産業看護活動向上のため尽力され、2008年7月には初代会長として「福島産業看護協議会」を立ち上げられ、福島県内の産業看護職の能力向上教育とネットワークづくりに力を注がれました。自職場で一人悩みながら仕事をしている私たちに、互いに学び合い産業看護のあるべき姿を模索し続けていくことの大切さを、その深い愛情と指導力をもって教えてくださいました。本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

福島産業看護協議会 前代表 佐藤美恵
(福島産業保健総合支援センター)

会員の異動(平成30年12月から平成31年4月)

■青森県

新入会 井原 一成
(弘前大学大学院医学系研究科社会医学講座)
中村 明美 (青森県赤十字血液センター)
退 会 竹林 正樹

■岩手県

新入会 工藤 淳子 (株式会社ジャパンセミコンダクター)
六本木 義光 (東芝メモリ岩手株式会社)
退 会 青木 慎一郎
高橋 健
秋山 直美

■宮城県

新入会 星 奈津美 (ニッカウキスキー株式会社仙台工場)
阿部 裕一 (阿部産業安全衛生事務所)
一迫 芙美
(東北大学大学院医学系研究科個別化予防・疫学分野)
玉井 ときわ
(東北大学大学院医学系研究科産業医学分野)
木下 英次 (木下デンタルクリニック)
真溪 淳子
(YKK AP 株式会社東北製造所健康管理センター)
転 入 高橋 亜依 (東京都から)
転 出 大橋 幸雄 (埼玉県へ)
退 会 菅野 淑江
早坂 弥生
齋藤 晴夏
佐々木 美和

■秋田県

新入会 佐々木 聖子 (社会医療法人明和会中通総合病院)
和田 桐子 (秋田産業保健総合支援センター)
退 会 鎌田 亜希江
栗津 力
平野 敏一

■山形県

新入会 板垣 有香 (山形産業保健総合支援センター)
荒生 玲 (東和薬品株式会社 山形工場)
荒木 彩子 (全国健康保険協会山形支部)
転 出 中村 翔 (神奈川県へ)
退 会 佐野 琢也
大竹 まり子
北林 蒔子
伊藤 裕美

■福島県

新入会 挾間 章博
(福島県立医科大学医学部細胞統合生理学講座)
吉田 良子 (いわき地域産業保健センター)
津村 紀子 (福島産業保健総合支援センター)
松本 理 (池田記念病院)
転 入 横川 裕子 (愛知県から)
転 出 片岡 修治 (栃木県へ)
退 会 黒田 真理子
朝比奈 章悟
松本 一美

編集後記

元号が平成から令和へと移行し初めての地方会誌の発刊です。5月だというのに既に真夏のような暑さとなり、これからの天候が少々心配になる昨今です。

本年9月には、仙台市にて東北地方会主催の第29回日本産業衛生学会全国協議会が開催されます。平成28年福島市で開催された第89回日本産業衛生学会以来の全国規模の学会開催となります。協議会が盛会となり、次回、地方会誌では良い報告ができますよう東北地方会会員の皆様にはご協力の程宜しくお願い申し上げます。

最後に、東北地方会の発展に御尽力賜りました、角田文男先生、黒田真理子先生のご冥福を重ねてお祈り申し上げます。(T. I)